



全校体制で取り組むGIGAスクール構想

—環境整備と研修体制の確立を通して—

新潟市立上所小学校

五十嵐健太 渡邊智宏

こんにちは。上所小学校でGIGAスクールを担当している五十嵐健太と渡邊智宏です。
どうぞよろしくお願いいたします。
それでは、発表を始めます。

当校では、全校体制で取り組むGIGAスクール構想というテーマを設け、主に環境整備と研修体制の確立に焦点を当てて研究を進めました。

全校体制で取り組むGIGAスクール構想

研究仮説

環境整備

研修体制

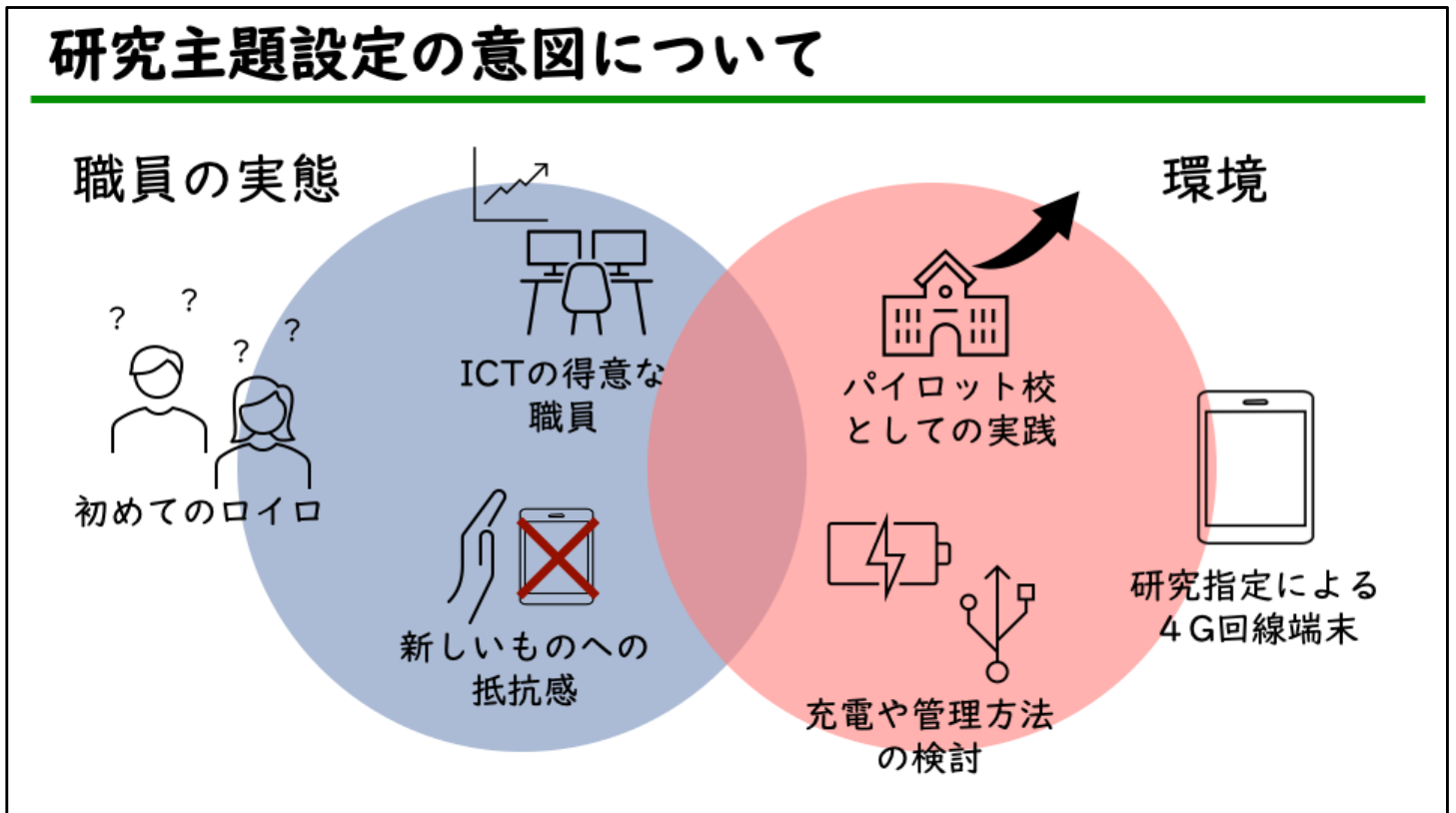
今年度の成果と次年度に向けて

今日の発表では、まず、研究仮説をお示しします。

次に、環境整備と研修体制について

最後に今年度の成果と次年度に向けた取組についてお話しします。

研究主題設定の意図について



実態についてです。

7月に端末が届き、ロイロノートの活用を始めた時、職員のほぼ全員がロイロノートを知りませんでした。

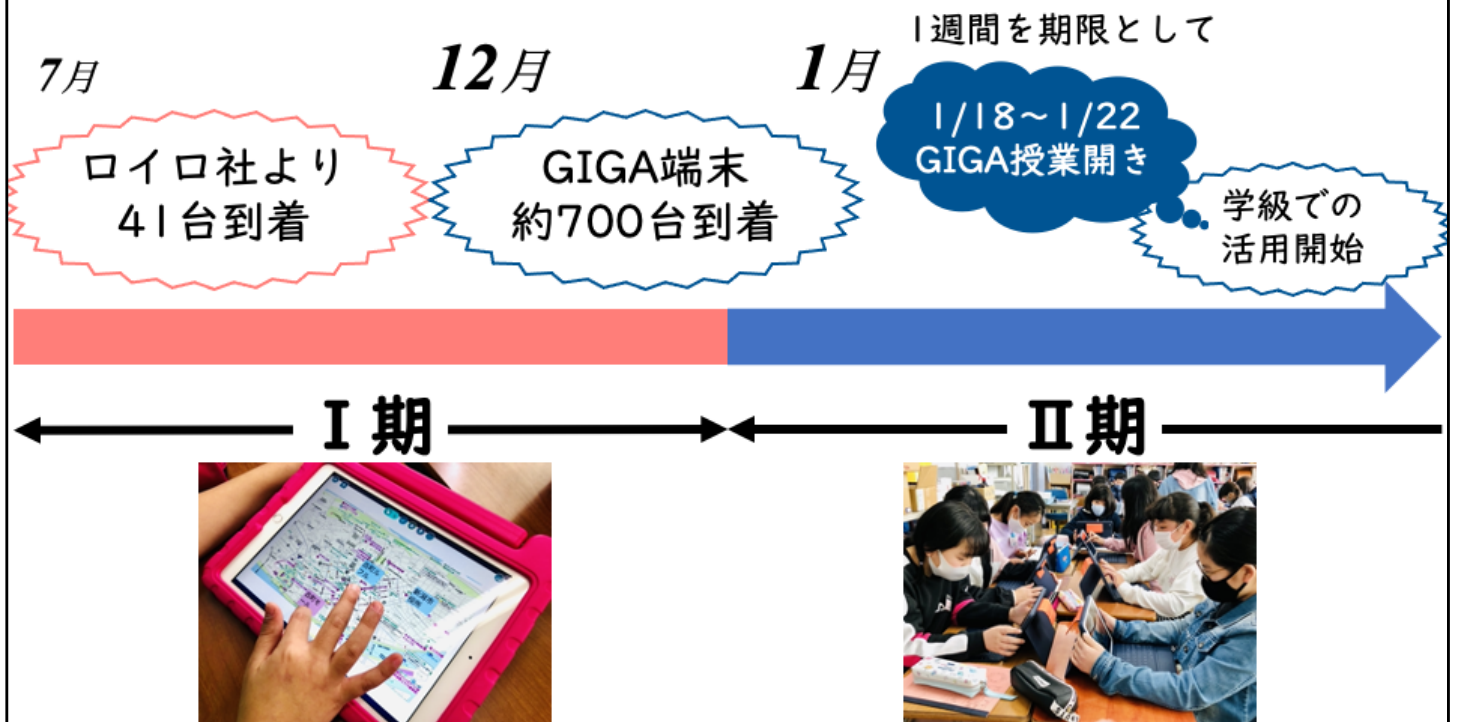
コンピューターリテラシーの高い職員を中心に、従来から新しいものを柔軟に受け入れてきた一方で、

新しいものに対する抵抗感が強い職員も混在し、学習活動をデジタルに変えていくことの難しさを感じていました。

次に、当校の環境についてです。本事業の研究指定を受けたことで、4G回線を利用するセルラーモデルの端末が41台届きました。

しかし、その充電方法や管理方法については一任されていたため、それらについて検討する必要がありました。

一人一台端末導入までの流れ



当校の現在までの流れです。

まず、7月に41台のiPadが届きました。

その後、12月の冬休み前にGIGA端末が届きました。先行して冬休み前には、職員にiPadを配付することができました。

子どもへは1月18日から1月22日を期限としたGIGA授業開きが終わった学級から活用を始めました。

41台を全校で使用していた時期をI期、▼GIGA端末を使用する時期をII期とし、それらの時期に分けて環境整備と研修体制を工夫してきました。

研究仮説

段階的に**環境整備**や**研修体制**を整えていくことで、
全職員がiPadを活用した授業ができ、
子どもが日常的にiPadを活用した学習ができる
だろう。

そこで研究仮説を、「段階的に環境整備や研修を整えていくことで、全職員がiPadを活用した授業ができ、子どもが日常的にiPadを活用した学習ができるだろう。」と設定しました。

全校体制で取り組むGIGAスクール構想

研究仮説

環境整備

いつでも
どこでも
簡単に

研修体制

短時間で
体験的に理解
分かりやすく

今年度の成果と次年度に向けて

この研究仮説を立証するための手立てが、「環境整備」と「研修体制」の二つです。職員が安心して一人一台の実践に向かう体制づくりを行うため、環境整備は「いつでも」「どこでも」「簡単に」を意識しました。また研修体制は、新しいものが入ってくる抵抗感や多忙感をできるだけ減らすため、「短時間で」「体験的に理解」でき、「分かりやすい」ものになるよう心掛けました。

環境整備（I期）

全校体制で取り組むGIGAスクール構想

研究仮説

環境整備

研修体制

今年度の成果と次年度に向けて

Key Word：簡単に

活用しやすい環境づくり

- ◆使用学年の制限
- ◆使用簿の作成
- ◆ロイロノートアカウントの作成

I期の環境整備のキーワードは「簡単に」です。

初めて使用するものなので、iPadそれ自体やロイロノートを活用しやすい環境づくりに努めました。

主な具体策は、ご覧の通りです。

活用しやすい環境づくり

-簡単に-

I 使用学年や時期の調整

高学年

中学年

7月

11月

6年生
宿泊研修

5年生
宿泊研修

全校縦割り遠足

6年生「地域の方から学ぶ」



マップアプリで
ルート検索

調べたことを
整理



継続的な情報活用能力の育成 ⇒ 効果的な活用

まず限られた台数を有効利用できるようにするため、「使用学年や時期の調整」を行いました。

最初に高学年、次に中学年へと使用学年を段階的に広げます。

また、教育活動に応じて集中的に活用できるように、時期の調整を行いました。

例えば、6年生は総合的な学習の時間では「地域の方から学ぶ」の学習活動に取り組みました。

この準備期間は6年生の使用を優先しました。

実際に訪れた会津若松市では、各班で1台ずつiPadを持って出掛け、マップを見たり、写真を撮ったりして活用しました。

子ども自ら調べ、地域に出掛け、自ら学ぶ姿が見られました。

端末がLTE回線を利用するものだったこともあり、校外での活用に大いに役立ちました。

全校縦割り遠足や5年生の宿泊研修でも同様です。

使用学年を制限することは、一見すると活用の幅が広がらないように見えます。

しかし、対象を絞ることで、継続的に子供の

情報活用能力を高めることができ、効果的な活用につながりました。

活用しやすい環境づくり -簡単に-

2 使用簿の作成

	11月16日	①使用学級 ②必要台数 を書き入れます			11月20日
	月				金
朝学習					
1		① 5-2 34	② 5-1 33	6-1 36台(国) ③ 5-2	6-2(外) 9台 6-4(外) 30台

予約状況の可視化 ⇒ より多くの学級での活用へ

次に、使用簿を作成しました。これは、細かな使用時間の調整を行うためです。

使用したい学級や職員は、この使用簿に使用学級名と台数を書き入れ、予約します。

予約状況を可視化でき、より多くの学級で活用することができました。

研修体制（Ⅰ期）

全校体制で取り組むGIGAスクール構想
研究仮説

Key Word：短時間
体験的に理解

環境整備

研修体制

活用方法のイメージづくり

今年度の成果と次年度に向けて

◆ロイロノート使い方研修

I期の研修体制のキーワードは「短時間」と「体験的に理解」です。
ロイロノートを実際に活用していくためには、活用方法のイメージが大切です。
主な具体策は、ロイロノートの使い方研修です。

授業における活用方法のイメージづくり



当初

120分

内容を厳選

40分

活用すべき機能の明確化 使ってみようという意欲の高まり

研修の前に、ロイロ社の担当者と研修内容について、事前の打合せを行いました。当初の提案は120分の研修でしたが、紹介してもらった機能を絞り、40分の短時間研修にしました。そのため、活用すべき機能が明確化され、職員の使ってみようという意欲が高まりました。

環境整備（Ⅱ期）

全校体制で取り組むGIGAスクール構想

研究仮説

環境整備

研修体制

今年度の成果と次年度に向けて

Key Word：いつでもどこでも

ストレスフリーな環境づくり

- ◆Apple TVの導入
- ◆体育館に無線APの設置
- ◆GIGA推進チームの発足

Ⅱ期はいよいよ全校利用に向けた環境整備です。キーワードは「いつでもどこでも」です。ストレスなく使える環境を目指しました。主な具体策は、ご覧の通りです。

ストレスフリーな環境づくり

1 Apple TVの導入



2 体育館に無線ルーターを設置



※文部科学省「学校再開に伴う感染症対策・学習保障等に係る支援経費」を活用

「いつでも」「どこでも」活用することが可能に

1つめは、AppleTVを全教室に設置したことです。こうすることで、教室のどこから誰でも画面の投影ができるようになりました。

2つめは、体育館にも無線LAN環境を整備したことです。いずれも支援経費を活用しました。これにより、体育の授業や学校行事等でも「いつでも、どこでも」活用することができるようになりました。

ストレスフリーな環境づくり

3 GIGAスクール推進チームの発足

一般的な例

GIGAスクール担当（情報主任など）

授業での活用場面

運用ルールの検討
※情報モラルを含む

アカウント作成

研修計画の作成

業務が重荷

1人では大変



チームで動くことが大切

3つめは、GIGAスクール推進チームの発足です。

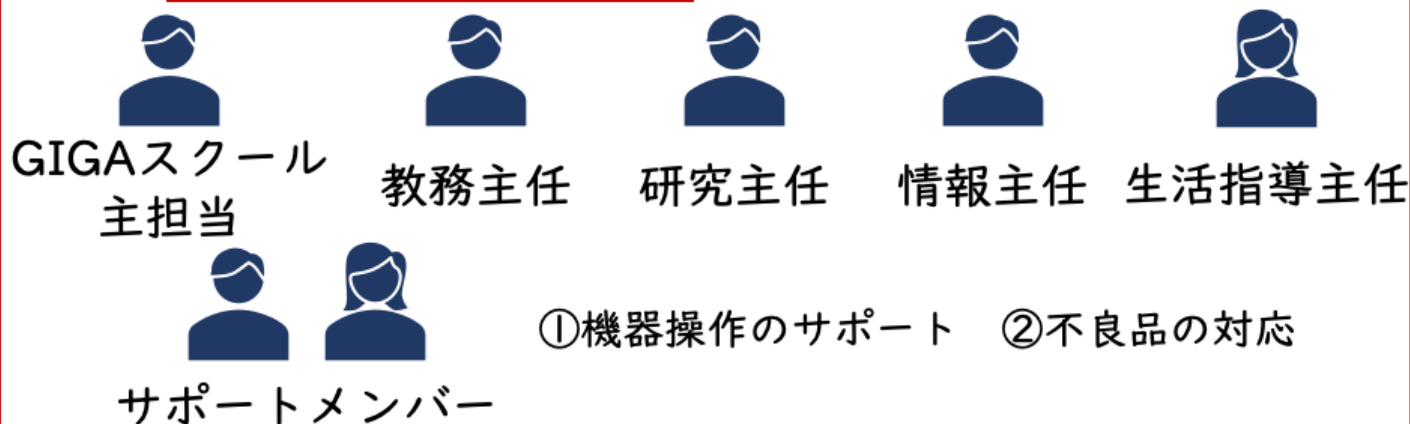
一般的な例では、授業での活用場面の検討、アカウント作成、情報モラルを含む運用ルールづくりなど環境整備、研修計画の作成と実施を情報教育担当だけで担う場合があります。これらの業務が重荷となり、1人で動くのが難しくなるのです。そこでチームで動くことが大切になるのです。

ストレスフリーな環境づくり

3 GIGAスクール推進チームの発足

当校での仕組み

GIGAスクール推進チーム



推進のための組織づくり 全校体制としては不十分

そこで私たちは、GIGAスクール担当者とそれに関係する分掌の担当職員とで、GIGAスクール推進チームを発足させました。

そして、ICTに長けた職員2名にもサポートメンバーとして、他の職員の操作方法等のサポートを担ってもらっています。

こうして、GIGAスクールを推進していくための組織づくりはできましたが、全校体制と呼ぶにはまだ不十分でした。

ストレスフリーな環境づくり

4 パイロットリーダー（PL）の設置

5学年の例

PLとして選出



学年内で共有

運用方法の検討

機器操作の研修



+ GIGA推進チーム

各学年の中でも活用を広げていくという意識の醸成

さらに、各学年からパイロットリーダーを選出しました。各学年のPLはGIGAチームと複数回ミーティングを行い、各学年の発達段階に応じた運用方法について検討したり、学年による少人数の機器操作の研修を行ったりしました。

そして、研修したことを学年に持ち帰り、共有します。

これにより、GIGAスクール推進チームだけでなく、各学年の中でも活用を広げていく意識をもたせることができました。

研修体制（Ⅱ期）

全校体制で取り組むGIGAスクール構想
研究仮説

Key Word：短時間で
分かりやすく

環境整備

研修体制

全職員の活用スキルの向上

今年度の成果と次年度に向けて

- ◆ロイロノート自主研修
- ◆GIGA授業開きの自校化
- ◆情報モラル研修

最後に、Ⅱ期の研修体制についてです。キーワードは「短時間で」「分かりやすく」です。全職員が授業で安心してiPadを活用できるようにスキルの向上を目指しました。主な具体策は、ご覧の通りです。

全職員の活用スキルの向上

1 ロイロノート自主研修

2 職員研修



1つ目の、ロイロノート自主研修は、授業で活用できるようにロイロノートの操作に慣れることが目的です。

この自主研修に取り組むことで、テキストの入力方法などを体験的に理解・復習してもらうことができました。

また自主研修へのそれぞれの取組を自由に閲覧できるので、他の職員の取組からロイロノートのスキルを学ぶことができました。

2つ目は、職員研修についてです。職員研修では、GIGA授業開きと情報モラルについて研修を行いました。

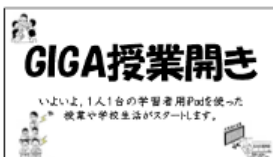
全職員の活用スキルの向上

市教委
プレゼン

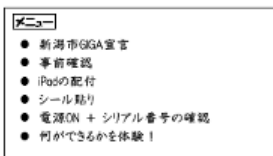


3つの視点から
プレゼンを自校化

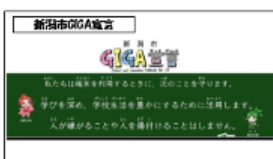
ス
ラ
イ
ド
1



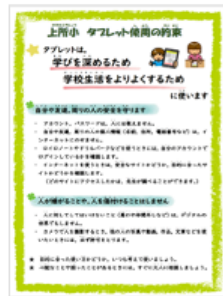
ス
ラ
イ
ド
2



ス
ラ
イ
ド
3



広がる活動
学びを深め、
学校生活を豊かに



規範意識の向上
安心・安全
情報モラル



自分事へ
トラブル回避
ムービーの活用

まず、GIGA授業開きに向けて、市教委のプレゼンを基本とし、次の3つの視点から自校化しました。

1：「広がる活動」 ロイロノートやドリルパークなど、様々なアプリの機能を使うと、学びを深め、学校生活を豊かにできること

2：「規範意識の向上」 規範意識をもって活用していくことで、思わぬトラブルを未然に防ぎ、安心・安全な利用できること

3：「自分事へ」 身近な生活を題材とした動画を見せ、具体例を通して児童が自分事としてトラブルを回避する意識をもつこと

です。

全職員の活用スキルの向上

3 情報モラルについて



使用の目的

私たちは端末を利用するときに、次のことを守ります。



花野古町

学びを深め、学校生活を豊かにするために活用します。

人が嫌がることや人を傷付けることはしません。



笹団子郎

使用の約束

3つ目は、情報モラルについてです。


新潟市GIGA宣言をベースに、当校では「上所小タブレット使用の約束」を作成しました。この宣言の内容を、「使用の目的」と「使用の約束」と捉え、整理して子どもたちに提示しました。

全職員の活用スキルの向上

3 情報モラルについて

使用の目的

★ タブレットは、
学びを深めるため
学校生活をよりよくするため
に使います



上所小 タブレット使用の約束

★ タブレットは、
学びを深めるため
学校生活をよりよくするため
に使います

自分や友達、周りの人の安全を守ります

- ・ アカウント、パスワードは、人には教えません。
- ・ 自分や友達、周りの人の個人情報（名前、住所、電話番号など）は、インターネットにのせません。
- ・ ロイノートやドリルパークなどを使うときには、自分のアカウントでログインしているかを確認します。
- ・ インターネットを使うときは、安全なサイトかどうか、目的に合ったサイトかどうかを確認します。
（どのサイトにアクセスしたかは、先生が調べることができます。）

人が嫌がることや、人を傷付けることはしません

- ・ 人に対してしてはいけないこと（悪口や仲間外しなど）は、デジタルの世界でもしません。
- ・ カメラで人を撮影するとき、他の人の写真や動画、作品、文章などを使いたいときには、必ず許可をとります。

★ 目的に合った使い方がどうか、いつも考えて使しましょう。
★ 心配なことや困ったことがあるときには、すぐに大人に相談しましょう。

「使用の目的」が伝わるようにするため、トップに大きく目立つように配置しました。目的に合った使い方かどうかを、常に意識できる子どもたちにしたいと考えたからです。

全職員の活用スキルの向上

3 情報モラルについて

使用の約束

自分や友達、周りの人の安全を守ります

人が嫌がることや、人を傷付けることはしません

※生活指導と共通

自分たちで考えて行動できるように

上所小 タブレット使用の約束

★ タブレットは、
学びを深めるため
学校生活をよりよくするために使います

自分や友達、周りの人の安全を守ります

- ・ アカウント、パスワードは、人には教えません。
- ・ 自分や友達、周りの人の個人情報（名前、住所、電話番号など）は、インターネットにのせません。
- ・ ロイロノートやドリルパークなどを使うときには、自分のアカウントでログインしているかを確認します。
- ・ インターネットを使うときは、安全なサイトかどうか、目的に合ったサイトかどうかを確認します。
(どのサイトにアクセスしたかは、先生が調べることができます。)

人が嫌がることや、人を傷付けることはしません

- ・ 人に対してしてはいけないこと（悪口や仲間外しなど）は、デジタルの世界でもしません。
- ・ カメラで人を撮影するとき、他の人の写真や動画、作品、文章などを使いたいときには、必ず許可をとります。

★ 目的に合った使い方がどうか、いつも考えて使しましょう。
★ 心配なことや困ったことがあるときには、すぐに大人に相談しましょう。

そして、「使用の約束」を、大きく分けて2つ提示しました。

特に、この2つ目の点は、日頃から行っている生活指導の内容と共通です。

何がよくて何がよくないかを一つ一つ細かく提示するのではなく、普段の生活指導と同じように、自分たちで考えられるようになってほしいからです。

本研究の成果

(1) 職員のiPadの活用状況

① 第3回（2月）オンライン学習参観でiPadを活用した授業を公開した職員数

※オンライン授業参観は、録画したものをYouTube上で公開するもの。 ※3年生以上

15 / 15

本研究の成果について大きく二つ紹介します。

一つ目は、職員の活用状況についてです。オンライン授業参観でiPadを活用した授業は3年生以上の15学級中15学級でした。

この中には、1月22日までに行われたGIGA授業開き以降、わずか一週間で活用した学級もあります。

公開授業時には、iPadを活用した授業もできることを伝えていたところ、3年生以上の学級担任合計15名のうち、全員がiPadを活用して授業を行ないました。

本研究の成果

(1) 職員のiPadの活用状況

2 1週間の中でiPadを活用した授業の平均実施回数

[調査期間：2021年1月25日（月）～29日（金）]

1年 (4人)	2年 (4)	3年 (4)	4年 (4)	5年 (4)	6年 (3)	特別支援 学級 (3)	級外 (5)
------------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-------------------	-----------

7.75	1.75	10	12.5	13.3	7	10	7.4
------	------	----	------	------	---	----	-----

二つ目は、1週間の中でiPadを活用した授業を行なった各学年の平均回数です。これはII期の開始に向けた研修がどの程度の効果があったかを示すものと考えます。各学年の様子を見てみると、I期で活用の多かった高学年では、iPadを活用した平均実施回数が多いことがわかります。また、低学年でもiPadの活用に取り組みが進んでいるのは研修の成果が表れたものと考えます。

(質問があった場合に)

活用の意味の中には、教材の画像提示を行うなどの教師のみが活用するもの、ロイロノートを操作し、提出箱に提出するなどの教師と子どもの両者が活用するもの、そして、ドリルパークに取り組むなどする子どもみの活用の3種類が含まれています。また、低学年や特別支援学級では、すきま時間に行うドリルパークの活用を進めています。

本研究の成果

(1) 職員のiPadの活用状況

- ① 第3回オンライン学習参観でiPadを活用した授業を公開した職員数

※オンライン授業参観は、録画したものをYouTube上で公開するもの。 ※3年生以上

15 / 15

(1) 職員のiPadの活用状況

- ② 1週間の中でiPadを活用した授業の平均実施回数

[調査期間：2021年1月25日(月)～29日(金)]

1年 (4人)	2年 (4)	3年 (4)	4年 (4)	5年 (4)	6年 (3)	特別支援 学級 (3)	級外 (5)
7.75	1.75	10	12.5	13.3	7	10	7.4

41台を効率よく運用し活用していた経験

PLの役割発揮 組織的な運用

この二つの成果は、41台を効率よく運用していた経験が生きていること、また、PLがその役割を発揮し、組織的に運用できていることが要因と考えています。

本研究の成果

(2) 子どもの感想

(提出箱があるから)

「みんなの意見が見えて分かりやすい」

活用し始めた
第3学年A児



(シンキングツールを使って、カードを繋げたり、動かしたりして)

「情報を整理することで、自分の考えをまとめやすい」

長期間活用してきた
第5学年B児

iPadで学習するよさを実感 ツールとして活用

また、教師だけではなく、子どもにもiPadの活用について話を聞きました。

iPadを本格的に活用し始めた第3学年のA児はこのように話しています。

I期からiPadを使っている第5学年のB児はこのように話しています。

二人の話から、子どもたちもiPadを学習で使用する効果を実感し、ツールとして活用できていると言えます。

本研究の成果

全職員が、iPadを活用した授業を行い、子どもが日常的に活用することができた。

- 第3回オンライン学習参観でiPadを活用した授業を公開した職員数 (15/15)
- iPadを活用した授業の平均実施回数 (高い活用実施)

以上のことから、本研究の成果として、「全職員が、iPadを活用した授業を行い、子どもが日常的に活用することができた」と言えます。

次年度に向けて

環境整備

- ・ 「上所小タブレット使用の約束」の見直し
- ・ 端末持ち帰りのルールづくり

研修体制

- ・ 新年度の新しいメンバーも安心して活用できるように

より一層充実したものに

次年度に向けて取り組みたいことは、次の三つです。

一つ目は、上所小タブレット使用の約束についてです。

現在提示した約束は暫定的なものと捉えています。今後、子どもたちの活用状況を踏まえ、更新していきます。

二つ目は、端末持ち帰りのルールづくりです。

新年度に向けて、学力部とともに端末を持ち帰って学習することを想定したルールづくりを行います。

三つ目は、新年度の新たなメンバーも安心して活用できる研修体制の構築です。

これらに重点的に取り組み、▼ICTが苦手でも、全ての職員がiPadを活用した授業ができるようにしていきたいと思えます。

環境整備の具体

- ・ ミニ動画研修（操作方法，ノート研修ロイロ版）
- ・ 子どもの情報活用能力の資質・能力の明確化
→目指す子どもの姿がより具体的になり，活用場面をよりイメージしやすくなる。



全校体制で取り組むGIGAスクール構想

—環境整備と研修体制の確立を通して—

新潟市立上所小学校

五十嵐健太 渡邊智宏

以上で発表を終わります。ご静聴ありがとうございました。
(終了)